他県の診療連携事例について

【山梨県】

- 山梨県CKD対策予防推進協議会を設置し、CKD対策の課題及び具体的な取り組み、病診連携の体制整備に関する事等について協議している。
- 毎年、病診連携システムに関するアンケート調査（病診連携システムの円滑化に関する事、紹介基準や再紹介チェックシートの見直しに関する事）を実施し、取組効果の検証に役立てている。
- CKDに関する研修を受け、積極的にCKD対策を推進するかかりつけ医を医療連携医として知事と医師会長が認定している。病診連携医は健診結果から腎臓専門医を紹介し、情報の共有、連絡をとりながら診察を進めている。
- なお、県ホームページに病診連携医リストを公開し、健診等で要精密検査となった方への受診勧奨等に活用している。
- 自県の現状を加味した独自の紹介基準と紹介状のテンプレートを作成している。
- 取組による効果
 - (1) 病診連携医：「紹介しやすい」、「自信を持って診察できる」
 - (2) 腎臓専門医：「保存期腎不全患者や糖尿病患者への対応がスムーズになった」
 - (3) 患者：「基準を説明することで、患者が腎臓専門医への紹介に納得し、安心して受診できる」

【岐阜県】

- 健診で発見されたCKD患者に早期に介入し、治療につなげるとともに、継続した医療を提供できる体制を維持できるようにするため、岐阜県CKD医療連携ワーキンググループを設置し、進めている。
- 年2回開催、全体説明会を1回開催し、かかりつけ医と腎専門医の連携の在り方の検討や連携マニュアルの作成、活用促進等を行っている。
- CKD連携ツール
 - (1) CKD診療連携マニュアル
健診からかかりつけ医へ、かかりつけ医から腎臓専門医へ照会基準を確認するフローチャートを作成する。
 - (2) 腎臓シール
CKD重症度分類に対応した腎臓シールの作成
 - (3) GFRグラフ
GFRをグラフ化し、腎機能を見える化。お薬手帳等に挟んで使用する。
 - (4) 診療情報提供書による情報共有